

とり がた  
鳥形  
そう しょう ひん  
装飾品

「まいコレ」では、収蔵庫に眠るイチ押しのお宝を、月替わりで紹介。

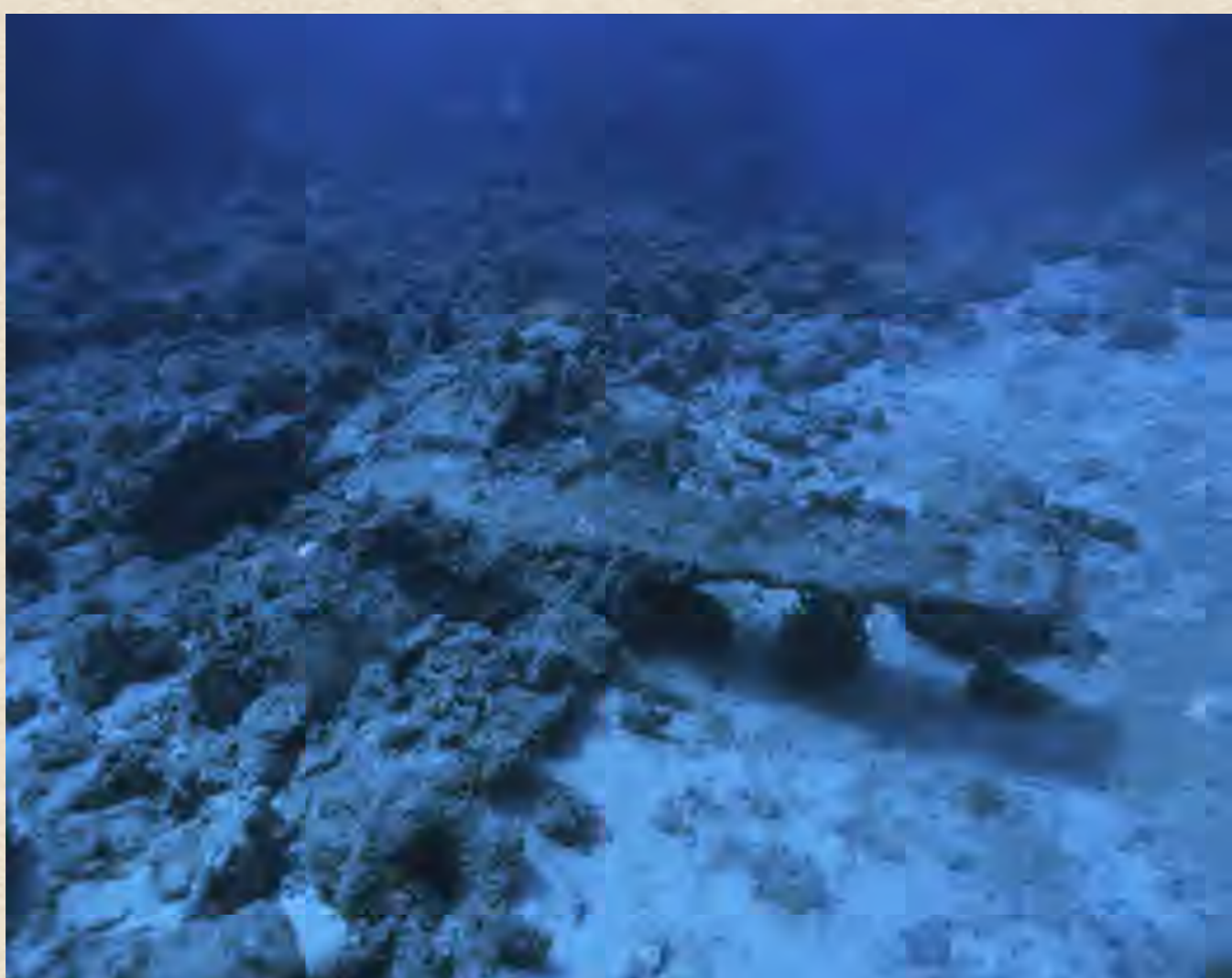
今回は、うるま市の南浮原島沖海底遺跡からの鳥形装飾品。

■ 出土地：南浮原島沖海底遺跡【うるま市】

本島中部うるま市の無人島、南浮原島みなみうきはるじまの海底17メートルに、欧米船とみられる沈没船の遺跡があります。うるま市の伝承に基づいて、聞き取り調査から遺跡の場所が確認ができました。

平成21・22年度の調査により、合計22点の遺物を回収しました。なかでも、目を引くのが鳥形装飾品です。尻尾の部分しか見つかっておらず全形・産地ともに不明ですが、磁器製じきせいでかなり大きかったと思われます。

現在のところ本海域での船舶事故せんぱくを記した文献ぶんけんは確認されていませんが、遺物の内容からみると宜名真沖海底遺跡ぎなま（1872年 米国船沈没）と似ていることから、同時期のものと考えられます。



▲ 岩盤の隙間に挟まった状態で確認



▲ 出土遺物  
（船の一部、中国産陶磁器、ガラス製品  
バラスト【石】、鉄・銅製品等）